

令和7年度 学力向上に係る研修会のまとめ

今年度、学力向上に係る様々な事業を実施してきました。その中でも、「つまずきを生かした児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上」を目指す確かな学力育成プロジェクトについて、学校の組織的な取組の推進の視点で実施した2つの研修会を振り返ります。各校で取り組んだ実践をもとに、新年度に向けた改善の参考にしていただきたいと思います。

研究主任研修会

- 説明「本県及び管内の学力向上の取組について」
- 実践発表
「検証改善サイクルモデル校の実践から」
- 情報交換
「『確かな学力育成プラン』の活用について」

教務主任研修会

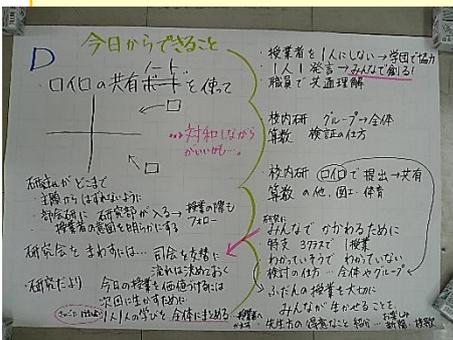
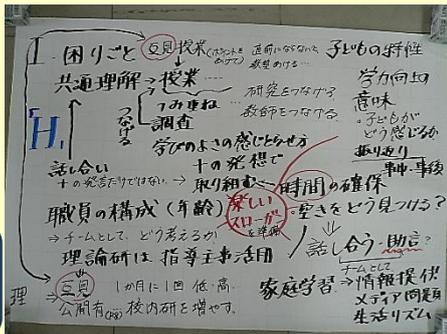
- 説明「令和8年度教育課程編成の留意点」
- 講義「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた当面の対応について」
- 協議「確かな学力の育成に向けた取組の改善」

- ◆ 調査結果を分析する際には、「各教科で解決すべき課題」と「学年や教科を超えて共通する課題」を洗い出すこと。
- ◆ 調査結果は、対象学年・教科の課題とするのではなく、学校全体で育成を目指す資質・能力として捉え、全教職員がそれぞれの担当で共通の課題解決を目指すこと。
- ◆ そのために、授業を見る視点等を校内で共有するとともに、授業づくりについて学年や教科を超えて教員同士が学び合う場を設定し、授業研究の活性化を図ること。

<協議の様子>



校内研の工夫について、各校の取組を交流しました。



交流する中で、新しい校内研のアイデアも生まれました。

「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた当面の対応について」(令和7年9月24日付教学第1116号)をもとに、つまずきの見られる内容や、各教科指導の改善方策など、主に算数、数学、英語についての授業改善の視点を具体的に確認しました。

- ① 諸調査結果を分析し、小問毎に育成を目指す資質・能力にもとづいて課題を明らかにし、学年や内容の系統を踏まえ、授業研究会や学校公開等を通じて授業改善を図る。
- ② 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、単元の学習内容や単位時間の目標について、まとめ方や指導の重点のつけ方を考える。
- ③ 学年や内容、教科等間などから「学びのつながり」を意識した指導を行う。
- ④ 各校における教育課程及び学校運営計画書と確かな学力育成プランの関連と取組の具体性について確認し、教育課程を編成する。
- ⑤ 学期ごと、諸調査ごと、授業研究会ごと等、複数回取組を見直し、改善を図る。
- ⑥ いつ、何について、どのように実施するのかを明確にし、目的と必要感をもって授業研究会を実施する。

今年度の学力向上の取組を振り返り、来年度の計画を立てる時期かと思えます。諸調査分析や児童生徒の実態から、教科の資質・能力と学年や教科を超えた資質・能力の育成に向けて教職員全体でどのように取り組んでいくか、確かな学力育成プランを活用して具体的に計画していきましょう。すべての子どもたちの学力向上とウェルビーイングの実現のために！

1

検証改善サイクルの質を高める

学力向上 **ACT-R8**



○ 各学校の確かな学力育成方策への支援強化

・R7全国学調で特に成果の見られた学校の多くが、「確かな学力育成プラン」に基づき、積極的に指導改善に取り組んでいることが分かった。

<特に成果の見られた学校の取組の例>

※R5中学校新入生学調で県平均を下回り、R7全国学調で全国平均正答率を上回った教科があった中学校の例

- ・調査対象の児童生徒が、その後の学習に関連する内容等を復習したり補充的な学習に取り組んだりする場面を適切に位置付けている。
- ・単元の中で数回、100字程度で学習を振り返り、わかったことやわからなかったことなどを整理し、知識の構造化を図る取組を行っている。
- ・関連する授業のまとめを相互に関連付けて、毎時間の個別の知識や技能が、他の学習や生活で活用できる深い理解に結びつくようにしている。
- ・家庭学習で「計画→テスト→分析→練習」のサイクルを推進し、児童生徒がそれぞれに計画を立てて自主学習できるようにしている。

・効果的な取組例について、確かな学力育成プロジェクトの各会議等を通じて広く周知を推めるとともに、課題の見られた学校の具体的な方策や改善状況、さらなる情報収集等、学校訪問等を通して間に基づき受講奨励、教員一人一人の資質向上等を含め、学

学年や教科を超えて共通する課題を解決するための取組

2

深い学びの視点からの指導改善

○ 目指す資質・能力の焦点化・明確化、内容等の重点化 ～児童生徒は、何ができるようになるのか～

・児童生徒質問調査の結果、「意欲をもって自ら進んで学ぶ」と「授業で自分の考えを深めたり広げたりしている」児童生徒の割合が全国平均を上回っている。また、算数・数学の授業で自分の考えを説明するなどの言語活動に肯定的な児童生徒は、国語や理科等、他教科でも平均正答率が高い傾向がみられる。このような状況を児童生徒の確かな学力育成につなげるため、諸調査結果分析を踏まえ、各教科等における目指す資質・能力等について小

- <小学校算数> 除法(小3)、簡単な場合についての割合(小4)、四角形と三角形の面積(小5)、速さ・割合(小5)、分数の除法(小6)など
- <中学校数学> 移項(中1)、錐体(中1)、データの活用(中1、2)、式による説明(中2)、図形の合同(中2)、変化の割合(中2)など
- <中学校英語> 話すこと、聞くことの領域で、目的・場面・状況等を明確に設定した言語活動の充実(中1、中2)など

つまずきの様子から、各教科で解決すべき課題を明らかにする

して組織的・計画的に言語活動の充実を図る。

3

学習評価の充実・ICT活用

○ 学習状況の見取り・指導に生かす評価の充実

・児童生徒のつまずきに寄り添い、つまずきを生かすために、学習状況の見取りを随時適切に行うなど、指導に生かす評価の充実を図る。

○ MEXCBT活用によるチェック問題の配信・果学調CBT化

・算数・数学、英語の重点内容について、MEXCBTを活用し、チェック問題等を配信するとともに、R9全国学調CBTを見据え、MEXCBTの活用を促進し、働き方改革や教育DXを一層推進する。

4

家庭学習の充実

○ 児童生徒が成果を実感できる家庭学習の工夫

・本県では、普段の勉強時間を「1時間以上、2時間未満」と回答した児童生徒の平均正答率をもっとも高く、全国と異なる傾向がみられる。「2時間以上、3時間未満」「3時間以上」と回答した児童生徒の取組内容や生活リズム等を調査し、効果的な家庭学習について検討する。

・全員一律の宿題と、自分で計画を立てて取り組む自主学習を組み合わせ、児童生徒が成果を実感できる家庭学習を工夫できるようにする。

5

各教科指導の改善方策(例)

学力向上 **ACT-R8**



<小学校算数>

○ 統合的・発展的に考える見方・考え方を働かせて数学的活動できるようにする

・「コマ単位に切り分ける授業づくりから、単元や題材など内容や時間のまとまりを見

<中学校数学>

○ 発展的に考える見方・考え方を働かせた数学的活動を積極的に取り入れる

・教科書や教材の活用を積極的に取り入れ、発展的

<中学校英語「聞くこと」>

○ 自分の置かれた状況等から判断して必要な情報を聞き取る「学習過程」を意識する

学 1.自分の置かれた状況などを理解する。
 一教師やALT/Small Talkを聞き、目的・場面・状況等を把握させる。
 習 2.英語を聞き、どういった情報を聞き取らなくてはならないかを把握する。
 一何を聞き取ればよいかを確認し、関連する語句や表現を予測させる。
 進 3.再び英語を聞き、自分にとって必要な情報は何かを判断する。
 一「必要な情報」のみを聞き取るよう指導する。
 履 4.学んだことを他の場面や状況で活用する。
 一別の評価問題等を活用し、目指す力が付いているか確認する。
 (参考) 令和5年度全国学力・学習状況調査実施要領 中学校英語
 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導資料pp.3-8

○問題例
 あなたは現在シアトル空港にいて、これから成田空港に戻るところです。今、フライト情報に関するアナウンスが入りました。
 ①アナウンスを聞きましよう。
 ②先生の質問を聞いて、その答えを書きましよう。

<アナウンス(スクリプト)>

May I have your attention, please? ABC Airlines Flight 126 to New York has been cancelled due to bad weather. ABC Airlines Flight 128 to Hawaii has been delayed. The departure time has been changed to 6:30. The new flight 128 to Hawaii has also changed from Gate D12 to D13. ABC Airlines Flight 119 to Hawaii has been ordered. The new boarding time is 6:50. The gate for flight 119 to Hawaii also has changed from B11 to B10. To repeat, Flight 126 to New York has been cancelled. Passengers on Flight 128 to Hawaii should go Gate D12 by 6:15. Passengers on Flight 119 to Hawaii should go Gate D03 by 6:50.

(先生の質問、例)

What happened to your flight?
 When is the new boarding time?
 Where do you have to go?

(先生の質問、例)

Question: What do you have to do?

内容や時間のまとまり、学びのつながりを意識した単元づくりを

第4学年「倍の見方」全4単元のまとめ(例)

① 種類は、わり算で求められる。
 ② 求められる大きさは、わり算で求められる。
 ③ 求めた大きさ、わり算で求められる。

倍の性質は同じ。○の性質が成り立たない場合は、○の性質が成り立たない。

Before (もとにする大きさ) × (倍) = (比べられる大きさ)

① 3 × 3 = 9
 1.5 × 3 = 4.5
 0.75 × 3 = 2.25

② 4 × 3 = 12
 4 × 3 = 12
 4 × 3 = 12

③ 6 ÷ 2 = 3
 1.2 ÷ 0.4 = 3
 0.6 ÷ 0.2 = 3

④ 12 ÷ 4 = 3
 3 ÷ 1 = 3
 1.2 ÷ 0.4 = 3

⑤ 20 ÷ 4 = 5
 1 ÷ 0.2 = 5
 0.5 ÷ 0.1 = 5

⑥ 1.2 ÷ 0.4 = 3
 0.6 ÷ 0.2 = 3
 0.3 ÷ 0.1 = 3

⑦ 3 ÷ 1 = 3
 1.2 ÷ 0.4 = 3
 0.6 ÷ 0.2 = 3

⑧ 1 ÷ 0.2 = 5
 0.5 ÷ 0.1 = 5
 0.25 ÷ 0.05 = 5

⑨ 0.5 ÷ 0.1 = 5
 0.25 ÷ 0.05 = 5
 0.125 ÷ 0.025 = 5

⑩ 0.25 ÷ 0.05 = 5
 0.125 ÷ 0.025 = 5
 0.0625 ÷ 0.0125 = 5

⑪ 0.125 ÷ 0.0125 = 10
 0.0625 ÷ 0.00625 = 10
 0.03125 ÷ 0.003125 = 10

⑫ 0.0625 ÷ 0.00625 = 10
 0.03125 ÷ 0.003125 = 10
 0.015625 ÷ 0.0015625 = 10

⑬ 0.03125 ÷ 0.003125 = 10
 0.015625 ÷ 0.0015625 = 10
 0.0078125 ÷ 0.00078125 = 10

⑭ 0.015625 ÷ 0.0015625 = 10
 0.0078125 ÷ 0.00078125 = 10
 0.00390625 ÷ 0.000390625 = 10

⑮ 0.0078125 ÷ 0.00078125 = 10
 0.00390625 ÷ 0.000390625 = 10
 0.001953125 ÷ 0.0001953125 = 10

⑯ 0.00390625 ÷ 0.000390625 = 10
 0.001953125 ÷ 0.0001953125 = 10
 0.0009765625 ÷ 0.00009765625 = 10

⑰ 0.001953125 ÷ 0.0001953125 = 10
 0.0009765625 ÷ 0.00009765625 = 10
 0.00048828125 ÷ 0.000048828125 = 10

⑱ 0.0009765625 ÷ 0.00009765625 = 10
 0.00048828125 ÷ 0.000048828125 = 10
 0.000244140625 ÷ 0.0000244140625 = 10

⑲ (もとにする大きさ) × (割合) = (比べられる大きさ) After

次のそれぞれの場合、合同な三角形の面積を求め、証明を添えてください。また、そのときに使った合同条件も必ず書きなさい。ただし、それぞれの図で、同じ色で付けた辺や角はそれぞれ等しい。

(1)

(2)

(3)

②の合同条件は、「2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい」じゃないかな?
 でも、同じ色で付けた辺は、1組だけで、ACとBDにはない。
 そうか、わかった!「1組の辺とその両側の角がそれぞれ等しい」のほうだ。

<【ICCT】図形領域の先取り問題で、証明の方針を立てるために話し合う活動>

「よー!」じゃ、次の図も、同じように合同条件を考えるとよ。

○ 1問の「見通し」より、複数問を通して「まとめ」でしっかり価値付ける

・1問をじっくり考える授業から、複数問で「だんだん見通しがもてる・だんだん分かる授業」へ転換し、テンポよく展開する。

・共通の「まとめ」と、個人の「学習の振り返り」で算数の価値付けをしっかりと行う。

○ 校内研究会、学校公開等の授業づくりで、定番ではない内容に挑戦する

・授業研究が、定番授業の焼き直しにとどまることがある。割合など、資質・能力等の焦点化、重点化を示した。

○ 「Dデータの活用」領域の成果を自信に! 今後は岩手の強みとする

・新領域で導入の際、「知識及び技能の習得とその活用」を核とした授業づくりが進み、全国平均正答率を上回る小問が多い。これを岩手の強みとして継続する。

・旧来からの領域でも、「脱・不易!」を進め、個別の知識や技能の習得に留まらず、活用した深い概念的・思考力、判断力、表現力の育成を二本柱として、一層

○ 「聞くこと」におけるデジタルの効果的な活用に向けて

・1人1台端末により、デジタル教科書やリスニング問題の音声データ等を活用するなど、自然な口調で話せる英語を耳にする機会を増やす。

・生徒が各自のペースで語句や表現、音の変化などを確認したり、聞き取れなかった語句や表現を確認したりできるようにする。

つまずきに応じた授業研究にチャレンジ!

教科指導(算数・数学・英語)の改善方策に基づく具体的な授業づくりについて、総合教育センターで希望研修講座が実施されます。どなたでも申し込むことができますので、ぜひ、ご活用ください!

- 中学校数学授業づくり研修講座(5月12日(火)予定)
- 中学校英語授業づくり研修講座(5月13日(水)予定)
- 小学校算数授業づくり研修講座(5月27日(水)予定)